

1 協議概要

次の事項について知事が、教育委員会との協議を経て了承。

- 「教育に関する大綱」と「教育振興基本計画」を整合性のとれたものにする
- 次期「教育振興基本計画」の基本的な方針の部分を、次期「教育に関する大綱」とすること

2 主な発言要旨

◇ 知事

- 次期「教育振興基本計画」の基本的な方針を、次期「大綱」としていきたい。
- 計画の基本理念が変わることはないだろうと思うが、時代に合わせて、バージョンアップをしていきたい。
- 新型コロナウイルスによる3か月の臨時休業という未曾有の経験を経て、学校教育が子どもたちの学習だけではなく、人間形成にとっていかに大事か、また、日常生活を取り戻す、社会経済活動を再開するうえにおいて、学校教育が一番基本のベースになるということも、多くの皆さんに御理解、御認識をいただけたのではないかと感じている。
- 今回のコロナを乗り越えるということが、子どもたちにとっても成長につながる。そこも踏まえて、今回の「大綱」づくりをお願いしたい。

◇ 教育委員

大須賀憲太 委員	<p>【世界にはばたく】次代を展望し、世界に視野を広げ活動することのできる人間</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルスの拡大により、グローバルスタンダードについて共通認識を持てる世界ではなくなった。コロナ後のグローバルスタンダードとは一体何かというものを、きちんと見据える必要がある。 ○ 日本は諸外国と比べてデジタル化の遅れが非常に顕著である。ITとかICTという分野でも、コロナの前と後とでは全く取組が違ってくる。
広沢憲治 委員	<p>【共に生きる】自他の命を大切に、多様な人々の存在を尊重して生きることのできる人間</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ感染者等への嫌がらせなどの報道に触れると、これまで以上に、他者の尊重、人権意識、お互いを思いやる気持ちを育てることが大事であると感じる。 ○ 子どもたちに対して地球環境について、具体的に指導していくことも重要ではないか。 ○ オンライン教育の必要性が増していることは言うまでもないが、今よりも少人数で子どもたちに対応できるようにすることで、今までどおりの教育が、小学校低学年でも進められるのではないかと感じている。
伊藤志のぶ 委員	<p>【自分を生かす】互いに切磋琢磨し、自らの力を社会に生かすことのできる人間</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分を生かせる生き方を目指すというのは、基礎学力をつけたうえで、応用力や知識、技術を磨いていくことであり、学校を出た後、自分の活躍する場所や、夢を実現する、夢を見つける、あるいは自分の居場所を見つけ、そこで幸せに生きていくことができるということではないか。 ○ コロナ禍において、生活環境や経済環境が激変している家庭がある。子供たちの学ぶ機会や、持続する機会が奪われないよう守っていかねばならない。また、日本語の支援が必要な子供に対しては、経済的な困窮というハードルが加わることも考慮する必要がある。
佐々憲一 委員	<p>【あいちを創る】あいちの伝統と文化、「ものづくりの精神」を継承し、新たな価値を生み出すことのできる人間</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍において、教職員の多忙化や子供たちの自殺など、教育における閉塞感を感じる。あいちを創るという意味では、人を創るというのが愛知をつくる、国をつくることの根幹だと思う。今が、閉塞感が漂う教育のあり方の再構築をする時ではないか。 ○ 既存の枠というものが、教育には多くあるように感じる。既存の枠にとらわれず、子供たちが良い未来を生きていくために、何が必要なのかを考える必要がある。
塩谷育代 委員	<p>【学び続ける】生涯にわたって健やかな体と心をつちかい、学び続けることのできる人間</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育に予算をかける必要がある。未来の子供たちが社会を引っ張っていく頃にどうなっているかを考えると、投資すべきものは人だと思う。 ○ 今の先生の働き方を見ていると、もっと学ばなければいけないことがたくさんあるのに、そのための時間が無さすぎると感じる。専門的な分野を、本来あるべき教師に求められるものを、もっと追求していけるような環境を整える必要がある。